

平成 30 年度 すこやかメールマガジン 第 623 号【予防接種】12 月 6 日配信

県内でもインフルエンザの流行が始まったようです。みなさん予防接種はお済みですか？今回は、毎年大流行するインフルエンザより 2～5 倍感染しやすいという、風疹（ふうしん）についての話題です。今年の風疹患者の数は 2,186 人と報告されており（平成 30 年 11 月 18 日）現在も拡大中です。

風疹は、発熱や全身の発疹が特徴のウィルス性感染症で、子どもの場合麻疹（はしか）に比べて軽症で済むことが多く、かつては「三日ばしか」とも呼ばれましたが、治療薬はありません。

一方、危惧すべきは大人への感染です。特に妊娠初期の妊婦が感染すると、赤ちゃんにも感染し、心臓病・難聴・白内障・発達遅滞などの先天性風疹症候群（CSR）を発症することがあるそうです。日本では、2013 年にも流行し、約 1 万 7000 人が風疹に罹患し、45 人の CSR の赤ちゃんが生まれました。

世界の状況を見てみると、日本以外の先進国は、予防接種により風疹を封じ込めています。それに対して日本は、世界から「妊婦の渡航自粛勧告」を出されているといえます。ラグビーワールドカップやオリンピック、万国博覧会を控えている国であるのに、それはなぜなのでしょう？

日本は、かつての予防接種政策が原因で、風疹ワクチンの接種の機会がなかったことや、十分な抗体を獲得できていない世代がいるからそのようなコメントが出されたものと思います。男女とも 29 歳～39 歳は 1 回接種、39 歳以上の男性は一度も接種していません。その結果、現在の流行の中心が 30～50 代男性となっているのは、このためです。妊婦の配偶者あるいは職場で共に働く世代でもあります。＊詳細は国立感染症研究所HP「風疹流行緊急情報（2018 年）」で最新情報を確認ください。

女性も 29 歳以上は 1 回接種のため、抗体ができていない場合があるそうです。かつて私自身も妊婦検診で「風疹抗体の検査が必要」と言われるまで、知りませんでした。

昨年ドラマ化されたマンガ「コウノドリ」のサクラ産科医が「先天性風疹症候群は怖いことと言うよりは・・・むしろとても悔しいことです。阻止できたはずの障がいですから」と言う場面がありました。予防接種を打てない妊婦を守るため、赤ちゃんの未来を守るため、イクメン・イクボス世代にこそ接種を受けてほしいものです。

岩手県では、風疹抗体検査を無料で受けられる場合があります。詳しくは県HPより「風疹抗体検査」で検索ください。性別・年代を越えてできる子育て支援をしてみませんか？

【Y】

○メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」
> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしくお願ひします(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口 2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索